

Green Brave

10th Anniversary

AUTOBACS SUPER GT 2022 SERIES

Round. 1

#52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT

OKAYAMA GT 300km RACE

2022年4月16日(土)・17日(日) 岡山国際サーキット(岡山県美作市)

予選 10 位からスタートするも緊急ピットインにより 26 位

土曜日(予選日)の天候は晴。9時20分から行われた公式練習では、吉田選手と川合選手が異なるタイヤを装着して走行。初戦ではタイヤ交換が義務付けられているので、得意の無交換作戦はできません。ベストタイムは吉田選手がマークした1分26秒422(19位)。GR Supra GTにはエンジンパワーを抑える新たな性能調整が施されており、トップスピードや加速面でやや不利な状況です。しかし、予選を想定したセッティングでのアタックは行っておらず、本番でどこまでタイムを伸ばすか楽しみなところです。

Q1(10分間)は2組に分かれて行われ、GR Supra GTはB組に出場。ドライバーは川合選手です。開始直後にクラッシュするクルマがあり、赤旗中断の後、残り8分で再開。川合選手は4周目に午前中のベストタイムを1秒以上縮める1分25秒153のトップタイムをマーク。川合選手のタイムを上回るライバルはおらず、堂々のB組トップで通過が確定しました。約25分後に行われたQ2(10分間)。吉田選手は川合選手のタイムをさらに短縮する1分25秒023をマークしますが、多くのライバルが相次いで1分24秒台に突入したため、正式結果は10位。上位グリッドこそ獲得できませんでしたが、エンジンパワーが絞られているにも関わらず、今年の予選タイムを上回ったのは、チーム全員の努力の賜物です。予選後、スタッフによるピット作業練習が行われ、今年からチームに参加している田原(武蔵藤沢支店)と中瀬(モータースポーツ室)も参加。田原は助手席側のタイヤ交換を担当しており、緊張した面持ちで練習を行いました。

日曜日(決勝日)の天候は晴。気温は前日より高く、路面温度も上がっています。チームはスタートドライバーに川合選手を起用。序盤でなるべく順位を上げ、得意のピット戦略で吉田選手につなぎ、上位を狙う作戦です。川合選手は10位をキープして1周目を終了。前は同じGTA GT300に属する#20GR86。抜くことができないまま周回を重ねます。川合選手は粘り強くプレッシャーをかけ、20周目に#20GR86をパス。9位に上がりますが、上位は直線スピードの速いFIA GT3勢。直線で離されてしまうレース展開が続き、チームは早めのピットインを決断します。レース距離の3分の1を過ぎた25周目、川合選手がピットイン。吉田選手に交代し、給油とタイヤ交換を行いピットアウトします。コースに復帰した吉田選手の順位は26位。その後は上位のピットインにより、着実に順位を上げていき、35周目の終わりには13位へ。ところが翌周、突如ペースダウン。クルマには駆動系のトラブルが発生しており、吉田選手はピットにクルマを入れます。

車体後部の外装が外され、原因を探るメカニックたち。吉田選手はクルマから降りることなく、コックピットにとどまっています。約17分間の修復作業の末、リペアは終了。トップから11周遅れの最後尾(27位)でレースに復帰します。貴重な走行機会を無駄にすることなく、タイヤの評価を行い26位でチェッカー。開幕戦を入賞で飾ることができず、悔しい結果となりましたが、次戦での本領発揮に期待です。



決勝結果 (GT300)

#52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT
(吉田広樹/川合孝汰)

決勝：26位 (65周、1時間59分54秒119)
予選：10位 (Q2:1分25秒023)

DRIVERS VOICE

吉田広樹選手



(予選後) 大きなミスをすることなくアタックできました。ぼちぼち頑張れたかなと思っていたのですが、ピットに戻ってきまわりのタイムを見たら、現実に戻された感じです。去年までのデータをもとにセットを変更して挑んだら、大幅にタイムは上がったのですが、コンディションも含めてのタイムアップだったので、他のチームも上がってしまいました。自分たちの力がある程度まとめあげた結果が10番手なのかなと思います。

(決勝後) 予選ですぐ後ろだった65号車がいいペースで前に出ているので、目指すはあの位置でした。自分も含めて、あの時こうしておけばというのがチームにあったと思うのですが、ひとつでも順位を上げられればと思い、4号車と戦っていました。クルマをなるべく冷やそうと、ラインをずらして風を当てて走っていたのですが、アラームが出始めて、4号車を抜きはしたものの、ギアがスタックしてしまい、何もできずピットに入ってメカに修復してもらいました。

川合孝汰選手



(予選後) 予選では週末を通してのベストタイムが出せました。公式練習でのクルマのフィーリングが良くなかったので、吉田さんといろいろ話をし、リアのセットを変更して挑みました。路面のコンディションも良くなり、タイヤのグリップ感もすごくあり、Q1ではトップタイムを出せました。Q2でも自分たちのベストを出せたのですが、まわりのタイムの上がり幅が大きく、みんな速かったという感じです。

(決勝後) スタート後、同じGTA GT300の20号車と争っていたのですが、性能調整がかなり効いてしまい、ストレートで離されてしまいました。仕掛けるタイミングもなく、後ろも加速がいいランボルギーニだったので、守りながらのレースになってしまいました。勝負をかけて、20号車をブレーキングで抜くことができ、前のFIA GT3に追いつくことができたのですが、やはり直線で離されてしまいました。今年は厳しい戦いになると思いました。

GT300 決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位	リアライズ日産メカニックチャレンジGT-R (日産 GT-R NISMO GT3)	77
2位	UP GARAGE NSX GT3 (ホンダ NSX GT3)	77
3位	LEON PYRAMID AMG (メルセデス AMG GT3)	77
4位	PACIFIC hololive NAC Ferrari (フェラーリ 488 GT3)	77
5位	Team LeMans Audi R8 LMS (アウディ R8 LMS)	76
6位	TANAX GAINER GT-R (日産 GT-R NISMO GT3)	76
26位	埼玉トヨペット GB GR Supra GT (トヨタ GR Supra GT)	65

天候：晴 路面：ドライ ※トップ6まで(出走27台)

チームランキング GT300

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	56	KONDO RACING	23
2位	18	TEAM UPGARAGE	18
3位	65	K2 R&D LEON RACING	14
4位	9	PACIFIC CARGUY Racing	11
5位	6	MOTOYAMA Racing w/Team LeMans	9
6位	10	GAINER	8
26位	52	埼玉トヨペット Green Brave	1

トップ6まで



PARTNERS



アルパインマーケティング株式会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



埼玉スリーボンド株式会社



株式会社西武ライオンズ



大和ラヂエーター工業株式会社



株式会社 TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY



株式会社ドーム



株式会社日本ビューテック



Mechanix Wear LLC

第2戦は5月3日~4日 富士スピードウェイ(静岡県)